

「平成29年度『学びのスタンダード』推進事業」の推進地域の取組

パイロット校名	いわき市立磐崎中学校 磐崎小学校
推進協力校名	いわき市立藤原小学校

～確かな学力を付けるための「主体的・対話的で深い学び」を目指して～

1 「授業スタンダード」の活用の仕方

(1) 「研究主題」とのリンク

研究主題 「確かな学力を付けるための主体的・対話的な学びの工夫」

「研究のための研究」に陥らないように、「授業スタンダード」を活用することが目標ではなく、手段の一つであるということを確認し合いながら研究を進めてきた。

(2) 「生徒・教師アンケート」とのリンク

「授業スタンダード」にあるチェックシートを参考にして、自校の実態に応じたアンケートシートを生徒用と教師用の2部を新たに作成し、そのアンケートの集計結果を基に教師個人や教科としての改善すべき点の「見える化」を図った。

(3) 「授業における重点実践事項」とのリンク

普段の授業において、「重点実践事項」を意識付けさせるとともに、研究授業や公開授業の学習指導案にも「重点実践事項」を項目として立ち上げた。その「重点実践事項」に関しては、「授業スタンダード」を参考にし、特に以下の3点を授業における具体的な手だてを講じることとして重要視した。

- ①何について学ぶのか、授業の見通しを具体的に持たせるための工夫
- ②意味のある手段としての話し合い活動に持っていくための発問の精選
- ③何がわかり、何ができるようになったのかに気付かせる振り返りの確保

2 パイロット校の取組内容

(1) 数学科の「タテ持ち」及び算数科の「TTによる教科担任制」の取組について

パイロット校Ⅰでは、3名の教師による「タテ持ち」を実施し、パイロット校Ⅱでは、推進教師がその専門性を生かし、TTによる教科担任制を実施した。

	1組	2組	3組	4組	5組
1学年	B	C	C	A	A
2学年	A	C	B	C	
3学年	B	B	C	A	

(パイロット校Ⅰの「タテ持ち」分担)

1組	2組	3組	4組
推進教師(T1)			
A担任 (T2)	B担任 (T2)	C担任 (T2)	D担任 (T2)

(パイロット校ⅡのTT分担)

(2) 教科部会の持ち方について

「タテ持ち」や「TTによる教科担任制」にすることによって、教科内での情報を共有する必然性が生まれ、自ずと教科部会の充実につながった。

- ① 授業進度の共通理解・共通実践
- ② 定期テストの問題作成検討
- ③ 相互授業参観
- ④ 学習指導案の検討
- ⑤ 教材、指導方法に関する情報交換・情報共有

(3) 「生徒・教師アンケート」調査結果の変容について

(4件法)

生徒アンケート 質問項目	1学期	2学期
Q7 ペア学習やグループ学習が、授業に取り入れられていますか。	2. 8	3. 5
Q10 授業での先生の問いかけは、わかりやすいですか。	3. 6	3. 7
Q12 授業の最後に、学習したことを振り返る活動は取り入れられていますか。	3. 1	3. 2

教師アンケート 質問項目	1学期	2学期
Q8 本時のねらいに迫れるように言語活動をコーディネートしていますか。	2. 4	3. 1
Q11 吟味し、精選された発問をしていますか。	2. 5	3. 1
Q12 授業の最後に、学習したことを振り返る活動を常に取り入れていますか。	2. 9	3. 4

3 推進協力校の取組内容

パイロット校（磐崎中・磐崎小）と推進協力校（藤原小）との共通認識、同一歩調のもと、連携を図りながら研究を推し進めてきた。

(1) 研究主題の共有化

「主体的・対話的で深い学び」とは、目の前の子どもたちに力を付けるための手段にすぎないことを互いに確認し合い、3校で共通した研究主題を設定し、目指すべき方向性を統一しながら研究を推し進めてきた。

(2) 授業研究協議会の活性化

指導主事等の要請訪問による授業研究協議会を計画的に立ち上げ、互いの学校から協議会にも参加することを通して、授業研究を深めていった。特に、推進協力校である藤原小においては、パイロット校以上の研究協議会の開催を数え、本推進地域の下支えをしていただいた。

(3) 「ステップアップテスト」の共通実践

これまで磐崎中学校で実践してきた「ステップアップテスト（基礎学力の定着を目指した確認テスト）」を磐崎小と藤原小でも同様に取り組むことによって、小・中での連携を図りながら基礎学力の定着を目指してきた。

4 成果と次年度へ向けて

(1) 成果

【成果① 教師集団の意識の向上】

- 伝達講習、要請訪問、講演会等を通して、「主体的・対話的で深い学び」に対する理解を深め、共通実践につなげることができた。
- 生徒・教師アンケートの実施によって、課題が浮き彫りになったことで、課題を焦点化し、教科における指導法の工夫・改善につなげることができた。
- 教科部会、要請訪問、相互授業参観等を通して、意見交換を活発に行ったり、学習指導案の検討を行ったりすることにより、指導力の向上につなげることができた。



【 成果② 教科部会の充実 】

- 特に数学科においては、「タテ持ち」にすることにより、数学科教師同士のコミュニケーションが増えるとともに、教科部会の開催回数も必然的に増えた。
- 学習指導案検討、定期テスト問題作成検討、授業方法や評価方法の共通理解・同一步調による話し合いが実施され、一人一人の指導力向上につながった。
- 教科部会だけではなく、普段の職員室で行われるコミュニケーション等からも互いに学び合う姿勢が生まれ、従来の指導法の見直しや教材の再発見などにつながっている。

【 成果③ 小・中連携の充実 】

- パイロット校（磐崎中・磐崎小）及び推進協力校（藤原小）との連絡協議会の実施や授業研究会に互いに参加し合うことで、小学校における学習指導法を参考にすることができ、そのことを基に中学校の指導法の改善に生かすことができた。
- 教科によっては、小学校の教科書を購入し、小・中連携を意識した単元構想や指導法の改善に役立てることができた。

（２） 次年度へ向けて挙げられる課題

【 課題① 「タテ持ち」による負担感の増大 】

- 数学科においては、3名の教師による全学年のタテ持ちにより、教材研究は膨大になる。それぞれの持ち時数も多いため、通常業務の中では、その負担感を抱いてしまうことは否めない。
- 各学年とも4もしくは5学級の編制であるが、自分が所属している学年にでさえ、半分以下の学級にしか担当することができない。そのため、その学年の生徒からの認知も低く、学年分掌や生徒指導面での不具合が生じる。



【 課題② 教師集団への早期理解の徹底 】

- 年度が替われば、人事異動により教師も入れ替わる。年度当初から足並みを揃え、同一步調で研究を推し進めていくためには、「授業スタンダード」を基にした研究協議会を早い時期に設定するとともに、内容のさらなる精選化を図る必要がある。
- 「授業スタンダード」を抛りどころにして、焦点化を図った効率的な学び合いの機会を来年度においても設定し、授業研究や互見授業をさらに日常化していけるようにしたい。

【 課題③ 保護者への啓蒙 】

- 今求められている資質・能力が、保護者の方々が学生だった頃と比べて、大きく変容していることに気付いてもらうとともに、その資質・能力を育成するためには、家庭での支援も非常に重要であることを認識していただくことが不可欠である。
- 「家庭学習スタンダード」を最大限に活用した保護者への啓蒙を図るためにも、保護者を巻き込んだ具体的な実践方法の立案・提示が求められてくるものと考えられる。

羅針盤～コンパス～

「学びのスタンダード」事業 本格始動の2学期です！

～1学期の研究へのご協力ありがとうございました～

何もわからず、全くの手探り状態で始まった「学びのスタンダード」事業でしたが、先生方のご協力のおかげで、どうにか流れに乗ることができた1学期でした。ありがとうございました。

とは言っても、1学期は「そもそも、学びのスタンダードとは何なのか？」ということへの思索、「磐崎中の生徒、先生方が抱える課題は何なのか？」という点の洗い出しで終わってしまったようにも思います。しかし、“ここがスタート地点だ”ということが明確になったことは、大きな一歩だとも言えると思います。今学期は、新人戦、文化祭など大きな行事の合間を縫っての授業公開に向けて、多忙な日々が続く予感です。お忙しい先生方が少しでも見通しをもって研究を進められるよう、研修主任としてできることは何か？と考えたとき、この“現職だより”の発行に思い至りました。微力ながら、先生方のお役に立つことができれば幸いです。

◇1学期のアンケートから

各学年の副担の先生方、延々と終わらない感満載の生徒アンケート集計、お疲れ様でした！（アンケートの詳細については、職員会議で資料としてお配りします。）また、教師用アンケートへのご協力ありがとうございました。（回答数：21名）そこから見えてきた課題とは・・・？

生 徒	教 師
<ul style="list-style-type: none"> ○学習のきまりを守っている、という自覚が高い。 ○授業の冒頭で目標（めあて）が示されているという自覚が高い。 ●授業にペア学習やグループ学習がとりいれられていないと感じている。 ●授業の伝え合いの場で、自分の考えを根拠をもとに伝えることに自信が無い。 ●先生に、ノート指導をされているという実感が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習規律の維持、徹底をしている。 ○机間指導で生徒を見取り、支援している自覚が高い。 ○単元（題材）の構想を明確に持って授業に臨んでいる。 ●ねらいに迫るような言語活動のコーディネートに自信が無い。 ●相互授業参観など、日常的な授業研究に消極的である。 ●新たな学びにつながる終末を工夫していないと自覚している。

生徒、教師双方が努力していくべきは、やはり、「言語活動」のようです。どの教科でも（技能教科

であっても)、“相手にわかりやすく”自分の思いや考えを伝える、という点が本校の弱点のようです。この点を、いかにして向上させていくか?具体的にどのようにしていけばいいのか?悩みながら、試行錯誤しながら、取り組んでいきましょう。

◇今後の研究の流れ

月	日	内 容
8	25	職員会議
	28	講演会(小中合同) *生徒5校時で下校
9	4	第2回要請訪問(9/19)の指導案提出締め切り
	8	指導訪問および学びのスタンダード事業公開(11/2)の指導案提出締め切り、 教科部会
	19	第2回要請訪問(数学・英語)
	28	中間テスト
10		相互授業参観月間
	27	文化祭
11	2	AM:指導訪問 PM:学びのスタンダード事業研究公開

磐崎小、藤原小の先生方も全員参加されます。講師の先生には、先生方の研究のヒントとなる講演内容で、と依頼しています。

該当の先生:桃澤先生、山下先生(数学)
田澤先生、折笠先生(英語)
ご苦勞おかけします。(提出先:研修主任)

全員が対象となります。約2ヶ月先の授業の指導案を作成するのは大変ですが、10月がとても忙しくなること、教科部会で指導案検討の後、手直しすることを考えての締め切りです。ご理解を!

全員がいずれかの授業を参観し、事後研究会にも参加していただきます。

第1号なので、さらっとA4版1枚くらいでまとめたかったのですが、ほぼ倍の量になってしまいました、ごめんなさい。それでもなお、最後まで読んでくださった方、ありがとうございました。さて、この夏休みに私が読んだ1冊の本の巻末にこのような言葉がありました。

授業を見なければ、授業は変わらない。
授業を見せなければ、授業は変わらない。
授業研究でしか、授業は変わらない。

(文部科学省視学官 澤井陽介著『授業の見方』より)

遠い昔、初任研のころ、確かにこのようなことを指導教官から教わった記憶がよみがえります。どうせ逃れられない研究指定なら、少しでもポジティブに、自分の糧になるほうがいいな、と思った次第です。では、(いつ出るか未定ですが)第2号までさようなら~~(^ ^)/

こ ん ぱ す
羅 針 盤

H.29.9.6 (水)

第 2 号

編集：研修主任 西

9月8日 (金) 指導案提出&教科での検討

「2学期が始まって間もないのに、もう11月の指導案?!」という先生方の心の叫び声がひしひしと感じられますが・・・そうです、今週の金曜日は、指導案を出す日になっています。さて、「教科部会で、どの程度まで話し合えばよいのか?」という点についての共通理解を図るために、第2号を出してみました。ご参照いただければ幸いです。

◇指導案様式について

〇〇〇H29 教育計画→教育計画→Ⅲ現職計画関係→〇1 現職・・・と入っていくと、一太郎形式とワード形式で「29指導案形式」というファイルがありますので、使いやすい方で作成してください。

★指導案左側一番下の欄「研究主題との関連」に記載する「研究主題」は、

「確かな学力をつけるための主体的・対話的な学びの工夫」

としてください。また、副主題は、今回は削除いたします。理由としては、本来の学校訪問（指導訪問）であれば、自校の現職教育のテーマ（主題・副主題）に沿って研究し、指導案にも記載すべきですが、今年度は学びのスタンダード事業とのタイアップという“特例中の特例”であるため、スタンダード事業における本校の研究主題に一本化するためです。

なお、道徳については教科の形式とは別なので、これにとらわれず作成していただきますようお願いいたします。

★指導案右側（学習過程）には、その1時間の中で特に「授業スタンダード」のどこに重点をおいて（意識して）指導しているのかがわかるように、○指導上の留意点と同じ欄ですが、

◇重点実践事項 として、（ゴシック体・太字）で示してください。

◇教科部会の流れ

国・数・英・理・社・保体・特別支援は、複数の担当教師がいますので、それぞれに場所をお決めになって、指導案を持ち寄ってください。音・美・技については、教科はちがいますが、複数の目で見るという観点で、1カ所に集まっていたいただきたいと思います。

<指導案検討のポイント>

①誤字・誤表記がないか。 ②本時の目標と評価の整合性 ③“学級の実態”が、題材（単元）に対応したものであるか。 ④“研究主題との関連”が◇重点実践事項に対応したものであるか。

・・・以上の点について、できる範囲で結構です、検討をお願いいたします。

◇今後の流れ

9月8日(金)	教科部会(指導案一次案検討)
教科部会を受けての直し期間	
9月21日(木)	指導案(二次案)提出
管理職・教務主任・研修主任チェック	
10月上旬	指導案(二次案)戻し
管理職チェックを受けての直し期間	
10月18日(水)	<u>指導案(最終案)提出</u>

この間、中間テストがありますね～

10月になると、新人戦・文化祭で忙しいですね～

・・・と、このように考えております。

お忙しいのは重々承知しておりますが、あとあと日程が詰まってしまうのもこれまた大変なので、ご理解の上ご協力お願いいたします m(; ;)m

公開(11月2日)日程の細案について

8月25日の職員会議での提案時に、広宣先生からご指摘がありましたとおり、あの原案ではやはり無理があると考え、後日(職員打ち合わせなどの機会)あらためて提示させていただきます。

改善点を大まかに挙げますと、

- ① 通常の学校訪問では、2校時からの参観だが、1校時から授業を入れる。
- ② 分科会を効率よく行うため、同じ教科を同じ時間に配置する。
- ③ 4校時は授業を入れない。

※すみやかに下校するクラス、会場作成してから下校するクラス、5校時の公開のため残るクラス・・・と、いろいろなパターンの動きが出てきます。それに伴い、先生方の動きもいろいろになります。5校時の授業公開にあたる先生方になるべく負担のかからないよう、工夫しております。(分科会での記録など、担当教科でなくとも、ご協力をお願いする先生方も出てきます。)

9月19日 第2回授業研究会(要請訪問)

授業を提供していただく先生方(桃澤先生、山下先生、田澤先生、折笠先生)、お忙しい中、指導案の提出ありがとうございました。夏休みから、ほぼ同時進行で2つの指導案を作成していただいたこととなります。このご苦勞に報いるためにも、意味のある研究会にしたいと思います。先生方、参観および事後研究会への積極的なご協力をおねがいたします!

こ ん ば す
羅 針 盤

H.29.9.14 (木)

第 3 号

編集：研修主任 西

9月19日(火) 第2回要請訪問日です!

9月8日は、お忙しい中、教科部会で指導案を検討していただき、ありがとうございました。

さて、そうこうしている間に・・・第2回要請訪問が来週に迫ってきました!突発的な生徒指導もあり、精神的にざわつく毎日ではありますが、何とか乗り切りたいと思います。よろしくお願いたします m(・・・)m

◇当日日程について

先日、大竹先生より詳しい日課表が出ております。午前中、短縮授業、給食(帰りの放送、短学活を含む)、5校時(13:05～)6校時(14:05～)、生徒下校、分科会(15:20～)、全体会(16:00～)となっております、ご確認ください。

なお、5、6校時は、生徒は自習体制となります。学年ごと、課題の用意をお願いします。また、誰がどの授業を参観するかは、原案を前回職員会議で示しました。学年内での交換はかまいません。念のため、再掲いたします。

		参 観 者	自 習 監 督 者
5 校 時	2年3組 数(桃澤)	大竹、西、吉田、上遠野 関、渡邊、(山下)、西牧	(1年)佐川、薄葉 (2年)鈴木(哲)、神村 (3年)真鍋、仲田 (特支)渡部
	3年2組 英(折笠)	横須賀、(田澤) 石川、鈴木(享) 鈴木(広)、黒川、増田	
6 校 時	2年2組 数(山下)	大竹、西、 鈴木(哲)、神村、 真鍋、(桃澤)	(1年)吉田、上遠野 (2年)関、渡邊、西牧 (3年)鈴木(広)、黒川、増田 (特支)鈴木(享)
	1年5組 英(田澤)	佐川、薄葉 石川 仲田、渡部	

◇分科会の流れ

数学は第1会議室、英語は第2会議室で行います。分科会ごとに、司会者、記録者、グループ協議の世話人を役割分担して、以下のようにしております。

〈数学〉 全体の司会：西

	世話人	記録
Aグループ（5校時）	西	真鍋
Bグループ（6校時）	鈴木（哲）	

〈英語〉 全体の司会：石川

	世話人	記録
Aグループ（5校時）	石川	横須賀
Bグループ（6校時）	鈴木（広）	

授業参観で、「良かったと思う点、参考にしたい点」をピンクの付箋、「疑問に思った点、課題と感じた点」を黄色の付箋に書き込んでいただき、グループ協議で拡大指導案にはりつけていく形で、ざっくばらんに、生きた協議会にしていきたいと考えております。世話人の先生方には、進行のマニュアルをお渡ししますので、よろしく申し上げます。

◇今後の流れ（再掲）

9月8日の教科部会のご協力ありがとうございました。検討後、暇を見て修正を加えていただき、「二次案」として提出になります。前回の現職便りと同じものですが、確認のため再度日程をのせました、ご参照ください。

9月8日（金）	教科部会（指導案一次案検討）
教科部会を受けての直し期間	
9月21日（木）	指導案（二次案）提出
管理職・教務主任・研修主任チェック	
10月上旬	指導案（二次案）戻し
管理職等のチェックを受けての直し期間	
10月18日（水）	<u>指導案（最終案）提出</u>

この間、中間テスト（28日）

10月になると、新人戦・文化祭で忙しいですね～

こ ん ぱ す
羅 針 盤

H.29.10.16 (月)

第 4 号

編集：研修主任 西

10月18日(水) 指導案提出日です!

9月には、お忙しい中、指導案を提出していただき、ありがとうございました。現職主任→教務→教頭→校長という流れで見させていただき、10月上旬に先生方にお戻しいたしました。そうこうしている間に新人戦市大会、文化祭の練習なども始まり、忙しい毎日となって参りました。このような状況の中でも、10月25日(水)には、指導訪問および学びのスタンダード事業公開の要項を完成させないといけません。そのため、25日から逆算して1週間前の18日(水)には、手直した指導案(最終版)を提出していただきたいと考えております。ご協力よろしく願いいたします。

◇11/2の日程について

大竹先生より詳しい日課表が出る予定です。(なくさないでください!) 午前中は「指導訪問」、午後は「学びのスタンダード事業公開」となります。変則的な時間割になっていますのでご注意ください。近くなりましたら、詳細を提示いたします。

◇今後の流れ

10月18日(水)	指導案(最終版)提出
最終点検期間	
10月25日(水)	製本完成、教育事務所・市教委へ提出
10月27日(金)	本校文化祭
校内環境整備期間	
11月2日(木)	<u>指導訪問 および 学校公開</u>
11月下旬	事後アンケート実施(変容の検証)

誤字・誤植のみ点検。内容についてはチェックしません。

教室や学年掲示板などの整備を計画的にお願いいたします。

指導訪問&学校公開日まであと一週間!

文化祭を明日に控え、大変忙しい中恐縮ですが、11月2日まで、あと一週間となりました。先日は、指導案の最終案をご提出いただき、ありがとうございました。おかげさまで、要項の作成が順調に進んでおります。

◇11/2の日程について

裏面に印刷しましたので、ご覧ください。また、当日の研究授業以外の授業は、基本的には木曜日の時間割で行います。ただし、分科会も入ってきますので、多少の変更・補欠対応が生じます。これについては、別紙（B4版）で発行しますので、そちらをご覧ください。

◇午後の「学びのスタンダード」日程について

午後の公開には、他校よりおよそ30名の参観者が来校します。（小学校も含む。）しかし、参観授業教科にばらつきがありますので、参加者が少ない教科には、本校（技能教科担当）の先生方にご協力をいただきたく思います。授業参観の上、分科会にもご参加願います。五教科担当の先生方は、該当教科の授業参観、分科会参加でお願いします。

教科	授業者（クラス）	司会者	記録者	指導助言者	場所	分科会参加予定者数（他校）+本校他教科
国語	神村（2-2）	鈴木（広）	横須賀	山上ひとみ	3-1	3+2（西牧、亭子）
数学	大竹（1-4） 桃澤（2-3）	関	山下	緑川 広美 大森 淳	3-2	9
英語	田澤（1-3）	石川	折笠	小玉 則子	3-3	3+2（吉田、佐川）
理科	西・上遠野（1-2）	真鍋	鈴木（哲）	大井川英敏	3-4	5
社会	薄葉（1-5）	黒川	渡邊	中田 敬介	2-3	2+3（仲田、増田、敦子）

また、司会者をお願いする先生方には、後日、司会進行マニュアルをお渡しいたしますので、参考になさってください。

文化祭後、ほっと一息つく暇も無く公開日がやってきます。体調管理にくれぐれも気をつけて、当日を迎えられるようにいたしましょう！



こ ん ぱ す
羅 針 盤

H.29.10.31 (火)

第 6 号

編集：研修主任 西

当日の教科分科会・全体会について

いよいよ 11 月 2 日がせまってきました。先生方も授業の準備でお忙しいことと存じます。11 月 2 日午後の「学びのスタンダード事業」公開における、教科分科会と全体会の持ち方について、以下のようにいたします。司会、記録に教科外でお世話になる先生方、お世話になります。

◎ 教科分科会（14：20～15：10）について

教科	授業者（クラス）	司会者	記録者	指導助言者	場所	分科会参加予定者数 (他校) + 本校
国語	神村（2-2）	鈴木（広）	横須賀	山上ひとみ	2-1	3 + 2
数学	大竹（1-4） 桃澤（2-3）	関	山 下	緑川 広美 大森 淳	3-1	1 1
英語	田澤（1-3）	石 川	佐 川	小玉 則子	3-2	3 + 2
理科	西・上遠野（1-2）	真 鍋	鈴木（哲）	大井川英敏	3-3	6
社会	薄葉（1-5）	黒 川	渡 邊	中田 敬介	3-4	3 + 3

○他校からの参加人数にばらつきがあるので、少ない教科には、本校（技能教科）の先生方が授業参観の上、分科会に参加するようにする。

（国：西牧、鈴木（享）

英：吉田・佐川

社：仲田・増田・渡部

○司会者は、以下のように進行する。

- 1 開会のことば
- 2 指導助言者紹介
- 3 参加者自己紹介
- 4 授業者自評
- 5 協議（質疑・応答も含む）
- 6 指導助言
- 7 閉会のことば

協議は、『授業スタンダード』の視点に焦点を当てて進める。

<例>

- ・本時の◇重点実践事項が、生徒の“主体的・対話的で深い学び”へとつながるものになっていたか
- ・要項中に示されている、各教科の“めざす生徒像”や、“研究の見通し”が、本時の授業のどの部分で反映されていたか
- ・参加者それぞれの学校で、『授業スタンダード』の受け止め方や活動のしかた、実践上の悩みなど～～など話し合っていたいただき、指導助言につなげる。

<裏面につづく>

◎ 全体会（15：20～16：00）について

会場：体育館

<進行：真鍋>

- 1 開会のことば（真鍋）
- 2 校長あいさつ・指導助言者紹介（校長）
- 3 研究概要説明（西）
- 4 全体指導（福島県教育庁いわき教育事務所主任指導主事 坂本 貴洋様）
- 5 お礼のことば（教頭）
- 6 閉会のことば（真鍋）